

広島大学第41回東京イブニングセミナー

■日時: 2012年3月16日(金) 18:00 ~ 21:00 (受付 17:30~)

■場所: 東京都港区芝浦3-3-6 キャンパス・イノベーションセンター(下図参照: JR田町駅 芝浦口 徒歩1分)

■費用: 講演会・無料、交流会・2,000円(当日支払い)

■主催: 広島大学(財務・総務室、保健学研究科)

■講演プログラム

1. 18:00~18:10 講師紹介及び関連部局の紹介 (2階多目的室2)

講師紹介 大前 和也 (東京オフィス 所長)

保健学研究科の紹介 森山 美知子(保健学研究科 教授)

2. 18:10~19:50 講演・質疑応答 (2階多目的室2)

(1) 広島大学発の生活習慣病の重症化を防ぐ挑戦

～ 患者さん・お医者さん・健保組合や国保がみんなでWin-Win-Win! ～

森山 美知子(広島大学大学院保健学研究科 保健学専攻 看護開発科学講座 教授
、株式会社DPPヘルスパートナーズ 取締役会長)

＜概要＞ 広島で、全国に先駆けて、生活習慣病/慢性疾患の重症化予防事業が始まりました。

医療費負担に苦しむ保険者(健保組合や市町村国保)が多い中、広島県呉市は全国に先駆けて重症化予防プログラムを広島大学と共同実施、透析への移行者の数を抑えることに取り組んでいます。慢性の病気をもつ方々に直接、看護師が長期にわたって療養生活の管理をお手伝いし、患者と医師とのコミュニケーションをつなぐ。それによってよりきめ細かな病気の管理が可能となり、重症化を防ぐことができ、医療費の上昇を抑制する効果が期待されます。この呉市での成功事例は、現在、全国に広がり、数多くの医療保険者がこのプログラムを導入しています。

世界でも数兆円規模で広がる疾病管理(Disease Management)、行政・医療保険者・事業主・医療関係者や民間事業者の連携が重要視され、持続的・効果的な疾病管理の実現に期待が寄せられています。医療サービス提供体制の新たな流れを紹介いたします。

(2) スポーツ医学の介護予防への展開

浦辺 幸夫(広島大学大学院保健学研究科 身機能生活制御科学講座 教授)

＜概要＞ スポーツ選手が全力で100mを疾走するのと、高齢者が転倒しないで歩行するのはどちらが困難でしょうか？両者が100%努力しているパフォーマンスの難易度については、甲乙つけがたいものがあります。私はこれまで20年近く、スポーツ医学を専門として研究を続けてきましたが、「高齢者は弱くて病気がち」という既成の概念があてはまらないケースをいくつもみてきました。

高齢者のQOL(生活の質)を高めるキーワードである「介護予防」を実現するために、スポーツ医学の視点から広島大学発の研究成果として福祉機器、日常用具の開発を行ってきました。今回はその発想のポイントを皆様にご紹介し、高齢者が高い運動能力を保つにはどうすればよいかを論じたいと思います。

3. 20:00 ~ 21:00 交流会 (5階リエゾンコーナー508AB)

■お申込み方法: 添付の「参加申込書」に所定の事項を記入頂き、FAXあるいはE-mailにて下記までお申込み下さい。(定員 60名)

申込み・問合せ先

広島大学東京オフィス

東京都港区芝浦3-3-6

キャンパスイノベーションセンター409号室

電話: 03-5440-9065

FAX: 03-5440-9117

E-mail: liaison-office@office.hiroshima-u.ac.jp

